

高品質・良食味米を目指し 気象変動に強い稲作りを行いましょう。

1-基肥

- ◎高品質・良食味米生産のためには、土壌条件にあった施肥量で適正な生育量を確保しましょう。
- ◎基肥は水稻の栄養生長量を確保するために施用しますが、多用は過剰生育を招き、倒状の原因となるので、適正な窒素濃度を有効分げつ終止期が過ぎる頃まで維持し、必要な良質茎を得る様にしましょう。

2-田植え

- ◎出穂期～登熟期の高温登熟を回避するため、連休後半の5月5日以降(目標は5月10日以降)に移植しましょう。
- ◎田植えは好天の日に行いましょう。(プール育苗は植え痛みしやすいため注意する。)
- ◎穂数の安定確保・過繁茂、細莖化を防ぐため栽植密度は50～60株/坪(15箱/50株、18箱/60株=10a箱数)。
※高地力田や大豆跡田の生育過剰になりやすい水田や、常強風地帯など茎数が確保しにくい地域は栽植密度を調整する。
- ◎植付深さは2～3cmとし初期分げつを促進させましょう。
- ◎補植は、基本的には行わず、連続欠株とまくら地程度ですませましょう。補植後は苗を速やかに撤去しましょう。
※いもち病の発生源になる恐れがあるため。

3-初期の水管理

- ◎田植え後活着するまでは、やや深水(3～4cm)の保温的な水管理をし、低温や風による植え痛みを防ぎましょう。
- ◎活着後はやや浅水(2～3cm)とし、水温の上昇を図り分げつの発生を促し、良質茎を早期に確保しましょう。
- ◎春雑草生すき込み等により、ワキの発生が多いほ場については、夜干し・水の更新等を行いましょう。
※水を更新する場合は早朝に灌水し、日中は止水とし水温の上昇を図る。

4-除草体系 ※除草体系は裏面に記載しております。

5-中干し・溝切り

- ・中干し・溝切りで生育を調整し、稲体の健全化で登熟を良好にする。
- ◎移植後35日(目標穂数の80%確保。300本/m²)で直ちに実施し、梅雨入り前に中干しを開始しましょう。
※地力の高いほ場では、目標穂数の70%確保(270本/m²)時に行ってください。
- ◎中干しの目安-小ヒビが入る程度。
- ◎出穂の1ヵ月前までに中干しを終了しましょう。
※終了時期が生殖成長期以降となると根域が縮小し、高温年では品質が低下する恐れがあるため。
- ◎溝切り間隔-8～10条に1本、末端を排水路に接続、溝の深さは10cm以上を確保しましょう。

中干し・溝切りの効果

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ① 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保。 | ④ 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保。 |
| ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減。 | ⑤ フェーン等の緊急時の迅速な灌水。 |
| ③ 土壌への酸素供給による根の健全化。 | ⑥ 秋の長雨による停滞水の容易な排水。 |

m²当たり茎数早見表

田植機 株セット	1株の平均茎数					
	15本	16本	17本	18本	19本	20本
50株	227	242	258	273	288	303
60株	273	291	309	327	345	364

※カドミウム対策(湛水管理)を徹底するためにも適期中干しをしっかりと行ってください。

6-病虫害防除

- ★斑点米カメムシ類の発生防止対策を徹底しよう! 『3・2・1・0運動』
3週間おきに2回の一斉草刈りで、出穂後1回の地域一斉防除を徹底し、斑点米0を(ゼロ)を目指しましょう!
※田植え後、農道畦畔のこまめな草刈りを実施する。

◎水稻育苗箱施用剤の種類と対象病虫害

区分	薬剤名 (○数字は農薬成分数)	対象病虫害					
		いもち病	穂枯れ (もみ枯細菌)	紋枯病	イトロ オウムシ	イネミス ザウムシ	ニカメイチュウ
殺虫剤	①フェルテラ箱粒剤				○	○	○
	①ワンリード箱粒剤				○	○	
殺菌・ 殺虫剤	②ツインターボ箱粒剤	○	○		○	○	
	③エバーゴルフフォルテ箱粒剤	○		○	○	○	

◎ばか苗病

育苗期間中発生する病害で「ばか苗」が近年発生が増加しています。感染した苗が本田で発病すると、株に発生した胞子が飛散し、翌年の伝染源になります。本田では薬剤防除ができませんので、育苗段階で発見したら、株ごと抜き取り、土に埋めるなどして処分して下さい。 ※育苗箱で異常な徒長苗が「ばか苗」の疑いがあります。

7-漏生粉対策

- ◎昨年8月の強風によって登熟中～後期の粉が脱粒し、ほ場に散乱しました。脱粒した粉が本年発生し、異品種混入の原因とならないように対策をしましょう。
- 1) 可能な限り昨年と同一品種を同一ほ場に作付ける。※「うるち米」と「もち米」変更は行わない様に努めて下さい。
- 2) 漏生粉に効果の高い除草剤の体系利用《裏面の除草体系参照(直播栽培では初期剤使用不可)》。
- 3) 条間に発生したイネの抜き取りを行う(中干し前)。

8-育苗後のハウス利用

- ◎水稻育苗後のハウス内や育苗箱で、野菜等を栽培する場合の水稲箱処理剤使用については、ハウス内や田植え後の育苗箱の使用(散布)は行わないで下さい。
※水稻箱処理剤の使用成分は水稻以外の作物に使用登録が無いので、ハウス内で散布しますと残留農薬として検出される場合がありますの注意して下さい。



舗装道でのトラクター走行により泥や土塊が散乱し、住民の皆様から苦情が多く寄せられています。

作業が終了したら
タイヤ及びクローラの土をしっかりと落としてから
公道に出しましょう!!

